

まちづくりインタビュー

今回のインタビュー先は・・・



FMびゅーの みなさん

現在室蘭市では、10年後のまちの将来像やまちづくりの方向性を示す「総合計画」をつくるため、何に力を入れて今後のまちづくりを進めていけばよいかヒントをいただくために、市内の様々なグループの方に対してインタビューを行なっています。

室蘭には良いところがたくさんある。知ってほしい、気づいてほしい。

まちを「おと」で伝える西いぶり地域のラジオ局、室蘭まちづくり放送株式会社（愛称：FMびゅー）は胆振管内初のコミュニティ放送局として、2008年8月に放送を開始して以降、地域の様々な情報を届けています。

2018年の北海道胆振東部地震の際には、避難、生活情報を24時間体制で伝え続け、胆振・日高地域に住む人たちを「おと」で支えてくれました。

まちをよく知るFMびゅーのみなさんに、室蘭について伺いました。

—室蘭らしさとは？まちの良いところに気づいてほしい—

「水族館に科学館、海や港もあって海産物が獲れる」「良いところがたくさんある。どこと比べるかでとらえ方は違う。良さに気づいて」との声。

私たちが当たり前に見て・触れているものこそ、とらえ方一つで優れた資源に変わります。「何もないまちと自分たちで言わずに、まちを知ることが大事」で、それを「子どものうちに知ってもらうことが必要」とも。自分のまちにもっと興味を持つ人が増えていくことが、元気で明るいまちにつながることに気づかされます。

—外から人を呼び込み、“交流人口で稼ぐ”視点も必要—

「将来、人が少なくなるから、交流人口で稼ぐべき」といった声。「海産物など食のアピールや、歴史や文化と観光を結びつけて、興味を持たせる工夫が必要」など。

人でにぎわう外から選ばれるまちになるために、今後は「稼ぐ観光」の取り組みが重要です。

—若い人が好む仕事は少ないかもしれない—

「若い人が好む仕事や事務職は少ないかもしれない」といった声もありました。魅力のある多様な雇用の場をつくることも若者の定着には必要で、定住へとつながるきっかけになりそうです。



みなさん、ご協力ありがとうございました！

今回のキーワード

まちを知って、良さに気づく

交流人口を増やす

多様な雇用の場

